



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月12日

上場会社名 岩谷産業株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 8088 URL <http://www.iwatani.co.jp/jpn/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野村 雅男
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員経理部長 (氏名) 渡邊 正博 (TEL) 06-7637-3325
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	489,012	4.4	8,184	△4.9	8,638	△0.3	4,647	40.7
25年3月期第3四半期	468,575	△0.6	8,609	△0.5	8,666	△1.4	3,302	△35.0

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 10,693百万円(122.6%) 25年3月期第3四半期 4,804百万円(45.8%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
26年3月期第3四半期	18	88	—	—
25年3月期第3四半期	13	56	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	419,770	21.8	99,470	21.8	—	—
25年3月期	386,302	21.5	90,903	21.5	—	—

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 91,379百万円 25年3月期 83,121百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	銭	円	銭	円
25年3月期	—	—	—	7.00	7.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	675,000	2.7	18,500	10.7	18,000	3.4	8,600	7.1	34	94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	26年3月期3Q	251,365,028株	25年3月期	251,365,028株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	5,327,783株	25年3月期	5,255,904株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	26年3月期3Q	246,076,186株	25年3月期3Q	243,422,968株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	11
平成26年3月期第3四半期実績及び平成26年3月期業績予想(連結)	11
(1) 損益計算書	11
(2) 平成26年3月期第3四半期 決算の概況	11
(3) 財政状態	11
(4) セグメント情報(当・前第3四半期実績比較)	11
(5) セグメント情報(平成26年3月期 業績予想)	11
(6) LPガス・産業ガス売上高・売上数量	12
(7) LPガス輸入価格の推移	12
(8) (参考) 個別業績の概要	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、政府の財政政策や金融緩和の効果による個人消費や企業の生産活動の持ち直しに加え、設備投資にも一部で改善の動きが見られており、世界経済の不透明感が残る中、緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況のもと、当社グループは、中期経営計画「PLAN15」に基づき、「持続的な収益力の向上」と「財務体質の強化」に取り組みました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高4,890億12百万円（前年同四半期比204億37百万円の増収）、営業利益81億84百万円（前年同四半期比4億25百万円の減益）、経常利益86億38百万円（前年同四半期比28百万円の減益）、四半期純利益46億47百万円（前年同四半期比13億45百万円の増益）となりました。

なお、当社グループの事業構造はエネルギー関連商品を主力としており、季節変動による影響を大きく受ける傾向にあります。LPガスの消費量は、気温や水温の影響を受けるため、販売量は夏季に減少し、冬季に増加します。このため当社グループは利益が下半期に偏る収益体質を有しています。

セグメントの概況は次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、事業セグメントの区分方法の変更を行っており、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

【総合エネルギー事業】

総合エネルギー事業では、消費者の節約志向や高効率機器の普及に加え、気温が前年よりも高く推移したことで、国内の民生用LPガス需要が減少しました。LPガス輸入価格は期初に下落した後、上昇傾向で推移しました。

このような環境のもと、主力の民生用LPガスでは、卸売部門での低採算取引見直し等により販売数量が減少したものの、消費者戸数の拡大に取り組んだことで、小売部門の販売数量は前年並みとなりました。収益については、円安の進行により販売価格が上昇したことで増収となりましたが、冬場のLPガス輸入価格の急騰から小売部門で収益性が低下したことなどにより減益となりました。

エネルギー関連機器については、防災・節電需要への対応から非常用LPガス発電機や太陽光発電等の販売が好調に推移しました。

この結果、当事業分野の売上高は2,636億38百万円（前年同四半期比141億46百万円の増収）、営業利益は45億24百万円（前年同四半期比5億58百万円の減益）となりました。

【産業ガス・機械事業】

産業ガス・機械事業では、自動車やスマートフォン関連など一部の国内製造業が回復傾向となったことに加え、中国・東南アジアでの需要が好調に推移しました。酸素・窒素等のエアセパレートガスは電力料金の値上げによる製造コスト上昇の影響があったものの、販売数量が増加したことなどから前年並みの収益となりました。ヘリウムは需給逼迫が継続する中、カタール産の調達など安定供給に努めたことで、販売が大きく伸長しました。水素は半導体業界を中心に販売数量が減少しましたが、液化水素の販売数量は増加しました。炭酸ガスは販売数量の増加や、自社プラントの稼働再開等により収益が伸長しました。

機械設備については、半導体業界向けの機械販売や、ガス関連設備の大型案件が減少したことなどから低調となりました。

この結果、当事業分野の売上高は1,071億33百万円（前年同四半期比2億75百万円の減収）、営業利益は28億98百万円（前年同四半期比3億83百万円の増益）となりました。

【マテリアル事業】

マテリアル事業では、電子マテリアル部門は、スマートフォン用機能性フィルムの販売が堅調であったことに加え、中国での精密スリット加工事業が好調となりました。金属部門は、ステンレス鋼の販売が好調に推移しました。機能樹脂部門は、樹脂製品の仕入コスト上昇により収益性が低下したものの、PET樹脂など樹脂原料の販売が堅調に推移しました。資源・新素材部門は、ジルコンの国内販売は厳しい状況が続いたものの、西豪州での鉱物原料事業における事業コストの低減により収益が改善しました。

この結果、当事業分野の売上高は892億80百万円（前年同四半期比41億2百万円の増収）、営業利益は13億69百万円（前年同四半期比2億89百万円の増益）となりました。

【自然産業事業】

自然産業事業では、食品部門は冷凍野菜や水産品の販売が伸長したものの、円安の影響等から輸入価格が上昇し、収益性が低下しました。農業・畜産部門は植物工場や畜産設備等の販売が好調となりました。

この結果、当事業分野の売上高は200億4百万円（前年同四半期比27億34百万円の増収）、営業利益は4億45百万円（前年同四半期比8百万円の増益）となりました。

【その他】

売上高は89億56百万円（前年同四半期比2億71百万円の減収）、営業利益は7億34百万円（前年同四半期比1億40百万円の増益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ334億67百万円増加の4,197億70百万円となりました。これは、現金及び預金が52億96百万円の増加、受取手形及び売掛金が117億49百万円の増加、商品及び製品が67億86百万円の増加、仕掛品が21億29百万円の増加、投資有価証券が74億90百万円の増加となったこと等によるものです。

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べ249億円増加の3,203億円となりました。これは、未払法人税等が20億67百万円の減少、賞与引当金が21億68百万円の減少となったものの、支払手形及び買掛金が116億46百万円の増加、短期借入金が190億30百万円の増加となったこと等によるものです。なお、当第3四半期連結会計期間末のリース債務を含めた有利子負債額は、前連結会計年度末と比べ179億89百万円増加の1,693億67百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比べ85億67百万円増加の994億70百万円となりました。これは、利益剰余金が28億82百万円の増加、その他有価証券評価差額金が36億74百万円の増加、為替換算調整勘定が16億15百万円の増加となったこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しについては、平成25年5月13日公表の業績予想と変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,382	19,679
受取手形及び売掛金	108,087	119,836
商品及び製品	34,834	41,621
仕掛品	2,885	5,015
原材料及び貯蔵品	3,276	3,502
その他	15,936	15,548
貸倒引当金	△624	△664
流動資産合計	178,779	204,538
固定資産		
有形固定資産		
土地	54,917	56,186
その他(純額)	72,270	77,362
有形固定資産合計	127,188	133,549
無形固定資産		
のれん	15,042	14,150
その他	2,663	2,867
無形固定資産合計	17,705	17,017
投資その他の資産		
投資有価証券	42,534	50,025
その他	20,955	15,448
貸倒引当金	△860	△809
投資その他の資産合計	62,629	64,664
固定資産合計	207,523	215,231
資産合計	386,302	419,770
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	98,500	110,146
短期借入金	36,305	55,335
未払法人税等	4,880	2,813
賞与引当金	4,283	2,115
その他	54,968	50,449
流動負債合計	198,938	220,861
固定負債		
社債	—	3,000
長期借入金	78,324	77,829
退職給付引当金	4,457	4,636
役員退職慰労引当金	1,114	1,124
負ののれん	280	194
その他	12,284	12,653
固定負債合計	96,461	99,439
負債合計	295,399	320,300

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,096	20,096
資本剰余金	18,042	18,042
利益剰余金	43,637	46,520
自己株式	△1,409	△1,435
株主資本合計	80,367	83,223
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,251	7,926
繰延ヘッジ損益	148	259
為替換算調整勘定	△1,646	△30
その他の包括利益累計額合計	2,754	8,155
少数株主持分	7,781	8,090
純資産合計	90,903	99,470
負債純資産合計	386,302	419,770

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	468,575	489,012
売上原価	368,065	386,997
売上総利益	100,509	102,014
販売費及び一般管理費		
運搬費	14,573	15,011
貸倒引当金繰入額	35	108
給料手当及び賞与	25,815	26,181
賞与引当金繰入額	1,835	1,955
退職給付費用	1,964	1,378
役員退職慰労引当金繰入額	150	159
その他	47,526	49,036
販売費及び一般管理費合計	91,900	93,830
営業利益	8,609	8,184
営業外収益		
受取利息	180	161
受取配当金	474	478
為替差益	618	491
負ののれん償却額	87	85
持分法による投資利益	125	490
その他	1,357	1,071
営業外収益合計	2,844	2,779
営業外費用		
支払利息	1,820	1,652
その他	966	672
営業外費用合計	2,786	2,325
経常利益	8,666	8,638
特別利益		
固定資産売却益	345	88
投資有価証券売却益	6	255
出資金売却益	11	12
出資金清算益	11	—
負ののれん発生益	32	172
補助金収入	—	16
特別利益合計	406	544
特別損失		
固定資産売却損	172	11
固定資産除却損	168	143
減損損失	169	136
投資有価証券売却損	0	38
投資有価証券評価損	928	—
出資金評価損	—	118
関係会社整理損	46	5
役員退職慰労金	27	5
段階取得に係る差損	—	8
固定資産圧縮損	—	16

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
特別損失合計	1,513	483
税金等調整前四半期純利益	7,559	8,699
法人税等	3,830	3,602
少数株主損益調整前四半期純利益	3,728	5,096
少数株主利益	426	448
四半期純利益	3,302	4,647

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,728	5,096
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	613	3,715
繰延ヘッジ損益	204	113
為替換算調整勘定	204	1,570
持分法適用会社に対する持分相当額	53	197
その他の包括利益合計	1,075	5,597
四半期包括利益	4,804	10,693
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,331	10,048
少数株主に係る四半期包括利益	472	644

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	総合エネ ルギー事 業	産業ガ ス・機械 事業	マテリ アル事 業	自然産業 事業	計				
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	249,491	107,408	85,177	17,270	459,347	9,227	468,575	—	468,575
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	5,252	4,720	4,306	160	14,440	14,537	28,977	△28,977	—
計	254,744	112,128	89,483	17,431	473,787	23,765	497,553	△28,977	468,575
セグメント利益又は損失(△)	5,083	2,514	1,080	436	9,115	875	9,991	△1,382	8,609

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融、保険、運送、倉庫、情報処理等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、各セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間取引消去額が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれん発生益はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	総合エネ ルギー事 業	産業ガ ス・機械 事業	マテリ アル事 業	自然産業 事業	計				
売上高									
(1) 外部顧客に対 する売上高	263,638	107,133	89,280	20,004	480,056	8,956	489,012	—	489,012
(2) セグメント間 の内部売上高又は 振替高	5,142	4,676	4,245	145	14,209	15,402	29,611	△29,611	—
計	268,780	111,809	93,525	20,149	494,265	24,359	518,624	△29,611	489,012
セグメント利益又 は損失 (△)	4,524	2,898	1,369	445	9,238	734	9,973	△1,789	8,184

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融、保険、運送、倉庫、情報処理等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額は、各セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間取引消去額が含まれております。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、会社組織の変更に伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「総合エネルギー事業」「産業ガス・溶材事業」「電子・機械事業」「マテリアル事業」「自然産業事業」の5区分から、「総合エネルギー事業」「産業ガス・機械事業」「マテリアル事業」「自然産業事業」の4区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれん発生益はありません。

3. 補足情報

平成26年3月期第3四半期実績及び平成26年3月期業績予想(連結)

(1)【損益計算書】

(単位:百万円)

	当第3四半期 (平成25/12月期)	前第3四半期 (平成24/12月期)	前年同四半期比	
			増減額	増減率
売上高	489,012	468,575	20,437	4.4 %
売上総利益	102,014	100,509	1,505	1.5 %
販売費・一般管理費	93,830	91,900	1,930	2.1 %
営業利益	8,184	8,609	△ 425	△4.9 %
受取利息	161	180	△ 18	
受取配当金	478	474	3	
為替差益(差損控除)	491	618	△ 127	
持分法投資損益	490	125	365	
支払利息	△ 1,652	△ 1,820	167	
その他営業外損益	484	478	6	
営業外損益計	454	57	396	
経常利益	8,638	8,666	△ 28	△0.3 %
固定資産売却損益・除却損等	△ 66	3	△ 70	
減損損失	△ 136	△ 169	32	
株式売却損益・評価損等	110	△ 911	1,021	
その他特別損益	153	△ 30	183	
特別損益計	60	△ 1,107	1,167	
法人税等	△ 3,602	△ 3,830	228	
少数株主利益	△ 448	△ 426	△ 22	
四半期純利益	4,647	3,302	1,345	40.7 %

◎連結範囲の変更

連結: 新規 8社 除外 3社 105社 → 110社
 持分: 新規 8社 除外 8社 110社 → 110社
 連結範囲の変更による影響額: 軽微

(3)【財政状態】

(単位:百万円)

	当第3四半期末	前期末	前期末比
総資産	419,770	386,302	33,467
自己資本	91,379	83,121	8,257
有利子負債	169,367	151,378	17,989
ネット有利子負債	149,688	136,995	12,692
自己資本比率	21.8%	21.5%	0.3pt
有利子負債依存度	40.3%	39.2%	1.2pt
有利子負債倍率	1.85倍	1.82倍	0.03pt
ネットDER	1.63倍	1.64倍	△0.01pt

※有利子負債には、リース債務3,558百万円を含んでおります。

(4)【セグメント情報】

(当・前第3四半期実績比較)

(単位:百万円)

	当第3四半期	前第3四半期	前年同四半期比	
			増減額	増減率
売上高(外部顧客に対する売上高)	489,012	468,575	20,437	4.4 %
総合エネルギー事業	263,638	249,491	14,146	5.7 %
産業ガス・機械事業	107,133	107,408	△ 275	△0.3 %
マテリアル事業	89,280	85,177	4,102	4.8 %
自然産業事業	20,004	17,270	2,734	15.8 %
その他	8,956	9,227	△ 271	△2.9 %
営業利益	8,184	8,609	△ 425	△4.9 %
総合エネルギー事業	4,524	5,083	△ 558	△11.0 %
産業ガス・機械事業	2,898	2,514	383	15.3 %
マテリアル事業	1,369	1,080	289	26.8 %
自然産業事業	445	436	8	1.9 %
その他	△ 1,054	△ 506	△ 547	—

※第1四半期より、会社組織の変更に伴い、事業セグメントの区分方法の変更を行っております。

なお、前第3四半期のセグメント情報は、変更後の区分方法により作成した上、増減比較しております。

※「その他」は、「その他」の事業セグメントと「調整額」の合計を表示しております。

(2)【平成26年3月期第3四半期 決算の概況】

《総括》

【総合エネルギー事業】

消費者の節約志向や高効率機器の普及に加え、気温が前年よりも高く推移したことで、国内の民生用LPガス需要が減少。LPガス輸入価格は期初に下落した後、上昇傾向で推移。このような環境のもと、主力の民生用LPガスでは、卸売部門での低採算取引見直し等により販売数量が減少したものの、消費者戸数の拡大に取り組んだことで、小売部門の販売数量は前年並み。収益については、円安の進行により販売価格が上昇したことで増収となったが、冬場のLPガス輸入価格の急騰から小売部門で収益性が低下したことなどにより減益。エネルギー関連機器については、防災・節電需要への対応から非常用LPガス発電機や太陽光発電等の販売が好調に推移。

【産業ガス・機械事業】

自動車やスマートフォン関連など一部の国内製造業が回復傾向となったことに加え、中国・東南アジアでの需要が好調に推移。酸素・窒素等のエアセパレートガスは電力料金の値上げによる製造コスト上昇の影響があったものの、販売数量が増加したことなどから前年並みの収益。ヘリウムは需給逼迫が継続する中、カタル産の調達など安定供給に努めたことで、販売が大きく伸長。水素は半導体業界を中心に販売数量が減少したが、液化水素の販売数量は増加。炭酸ガスは販売数量の増加や、自社プラントの稼働再開等により収益が伸長。機械設備については、半導体業界向けの機械販売や、ガス関連設備の大型案件が減少したことなどから低調。

【マテリアル事業】

電子マテリアル部門は、スマートフォン用機能性フィルムの販売が堅調であったことに加え、中国での精密スリット加工事業が好調。金属部門は、ステンレス鋼の販売が好調に推移。機能樹脂部門は、樹脂製品の仕入コスト上昇により収益性が低下したものの、PET樹脂など樹脂原料の販売が堅調に推移。資源・新素材部門は、ジルコンの国内販売は厳しい状況が続いたものの、西豪州での鉱物原料事業における事業コストの低減により収益が改善。

【自然産業事業】

食品部門は冷凍野菜や水産品の販売が伸長したものの、円安の影響等から輸入価格が上昇し、収益性が低下。農業・畜産部門は植物工場や畜産設備等の販売が好調。

【売上高・利益】

売上高は、前年同四半期比204億円増収。営業利益、経常利益は減益となったものの、売上総利益、四半期純利益はそれぞれ増益。

(5)【セグメント情報】

(平成26年3月期 業績予想)

(単位:百万円)

	通期
売上高	675,000
総合エネルギー事業	363,700
産業ガス・機械事業	153,600
マテリアル事業	119,400
自然産業事業	25,700
その他	12,600
営業利益	18,500
総合エネルギー事業	12,300
産業ガス・機械事業	5,400
マテリアル事業	2,300
自然産業事業	630
その他	△ 2,130
経常利益	18,000
当期純利益	8,600

※「その他」は、「その他」の事業セグメントと「調整額」の合計を表示しております。

※平成25年5月13日公表の業績予想を変更していません。

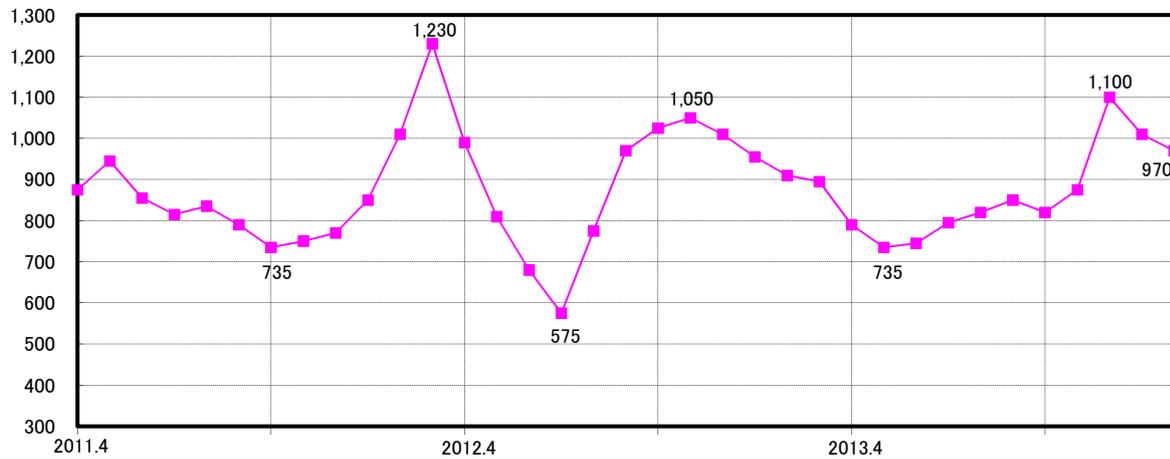
(6)【LPガス・産業ガス売上高・売上数量】

		当第3四半期	前第3四半期	前年同四半期比	
				増減額	増減率
国内民生用	売上数量(千トン)	1,048	1,094	△ 46	△ 4.3 %
	売上金額(百万円)	127,853	122,405	5,447	4.5 %
国内工業用	売上数量(千トン)	215	231	△ 15	△ 6.7 %
	売上金額(百万円)	22,095	21,127	968	4.6 %
海外	売上数量(千トン)	426	491	△ 64	△ 13.1 %
	売上金額(百万円)	36,362	34,849	1,512	4.3 %
LPガス合計	売上数量(千トン)	1,690	1,817	△ 126	△ 7.0 %
	売上金額(百万円)	186,310	178,383	7,927	4.4 %
各種産業ガス	売上金額(百万円)	60,115	57,114	3,000	5.3 %

※国内民生用のうちバーター取引は、前年同四半期と比べ30千トン減少しております。

(7)【LPガス輸入価格の推移】

プロパン(ドル/トン)



(8)【(参考)個別業績の概要】
(損益計算書)

	当第3四半期	前第3四半期	前年同四半期比	
			増減額	増減率
売上高	347,450	337,536	9,913	2.9 %
営業利益	2,082	4,048	△ 1,965	△ 48.6 %
経常利益	3,528	5,316	△ 1,787	△ 33.6 %
四半期純利益	2,337	2,909	△ 571	△ 19.6 %

(単位: 百万円)

(財政状態)

(単位: 百万円)

	当第3四半期末	前期末	前期末比
総資産	295,283	272,066	23,217
自己資本	67,889	63,736	4,152
自己資本比率	23.0%	23.4%	△ 0.4pt